□はリンク　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　らるご　※

日付　平成　20年 3月 31日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年

評価調査員　介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

1．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

建設業を営み、地域の中で民生委員を長くしていた時、特別養護老人ホーム等を見学した際に、高齢者の扱いを見て「人の尊厳とはそんなものではない筈だ」と愕然とした。自分の父親が病気で入院したが、その後、車椅子の生活となった。それを見て「杖を突いてでも歩いて欲しい」と願い、リハビリに励んで貰い、数年後に歩けるように回復した。「やれば何でも出来るではないか」と父親共々自分自身でも勇気が湧いたそうだ。それから民生委員として活動していた中で、その地域の高齢者が認知症になっていくのが目に付き、これらの人を何とか出来ないものかと岡山市に相談した事が、今日のグループホーム設立の動機となった。同じグループホームを作るにしても安価で作れなければならないと、岡山市長や幹部職員を説得して、調整区にホームを作れるよう議会にて決定、平成14年3月に現地設立にこぎつけた。

一つの思いを情熱的に取り組む社長が、先ず取り組んだのは、地元の人々のグループホームに対する理解を求め、協力して貰う事だった。地元町内会の役員会に出席して、ホームの建設に理解を求めた。何回も説得を重ね「明日はわが身かも知れない。理解してくれる事例を示して欲しい」と要望し続けた結果「会社がしっかり面倒見るならええか」と社長の情熱を信用した。今の土地は、地域の氏神さんの神田だった所で、以前に火災で焼失した神社を復元する為に売却したものである。このように地元との付き合いが続き、神社の祭礼の日に合わせて「らるご祭」をホームが開催して、町内の人が祭礼の帰りにホームに寄って、食事をして帰るという習慣が出来た。これが、現在何処のホームにもある地域密着型のサービス提供者に課せられた地域との関係作りであり、平成14年に既に地域との親密な関係を持つ事が出来ていた。何事もホームを開設する前に地域との関わりを作っておかねば成らないという良い事例である。

その当時から、社長と共に開設に協力したホーム長は「人が人をお世話する職場である。職業であるが、あくまでも奉仕の精神が必要です」と利用者や家族に対する職員としての心得を話す。自分の母親を世話して貰いたいという人が、このホームを見学に来て「利用者さんに表情があった」とこのホームに決めた動機を話したそうだ。このホームの利用者は、私達にも人馴れる気持ちを表してくれる。よくお話も気さくにしてくれる事からも、ホーム長の語ったことは理解出来る。

特に改善の余地があると思われる点

新しく計画作成担当者が就任したのを機に、介護計画及び記録が利用者の生活に密着したものにするよう、もう一度見直しをしてみては如何だろうか。計画と記録が、利用者のホームでの生活の全てを収録されたもので、その中からその人の生活能力を改善、又は、維持していく経緯とその人の状態を一見して判断出来るものとなれば良いと思う。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･： 特に改善すべき事項はない。理念については、ミーティングでもよく話し合っており、利用者に対する考え方は職員間ではよく共有されている。 2、 全体的に見て･･： “ゆったり、ゆるやかに、表情豊かに”「認知症の症状もゆるやかに進んでいく。ここは家庭なので、無理をしても後が続かない。押し付けるのではなく、普通の家族のような生活をゆっくり、のんびり、怪我なく過ごせたら良い」とホーム長はホームの目標を語っていた。 “らるご”という言葉は、ゆったり、ゆるやかにというイタリア語の音楽用語から引用して、ホーム長が名付けたそうだ。ホームの門の近くに、らるごの言葉がモザイクタイルで描かれた社長手作りの看板が作られていた。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･： 玄関を入ると、一直線に伸びた広い幅の廊下が通っている。その片面はリビングルームと厨房があり、廊下に沿って居室が並んでいる。リビングルームの奥は畳敷きの和室空間があり、手前に食堂ゾーンがある。そこから外のウッドデッキに出て、外の空気に触れる事が出来る。現在のこの空間について改善するところはない。 2、 全体的にみて･･： 男性が3人、女性6人の生活の場である。男性2人は囲碁好きで、和室に上がって囲碁を楽しんでいる時をよく見る。2人ちょぼちょぼの名コンビだそうだ。 長い廊下を活用して、歩行訓練や車椅子でも手摺に掴まって少しでも立ったり、歩いたりして、リハビリに励む場所となっている。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･： ケアサービスについて、現在している事を改善する必要はないが、一つひとつのケアについて、職員の意識を高めたり、知識を吸収して、改良を重ねて、ケアの質の向上には限度なしという気持ちでいる。 2、 全体的に見て･･： 朝のおやつ前にテレビ体操を皆でする。昼食後はテーブルに座ったまま、風船バレーをする。あまり回らない人にゆっくりとボールを回してあげる親切さもあるが、慣れてくると皆、積極的になる。その内に風船ボールのオレンジ色と緑色の2個のふうせんが廻ると忙しい。思わず立ち上がったり、両手が出て男も女も必死になる。息が上がってくる位しっかり運動になる。 「人生は順送り、自分もいつか世話になるのだから、自分も世話をしておくべきだと考えて、介護の道へ素人から入った」と言うホーム長も今はベテランになった。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。
記述回答	1、 自主評価について･･： 地域との関わりは、設立以前からの関係作りをしてきた。地域の方々との集団としてのお付き合いと、散歩に出掛けた時の個々の人との付き合いをしっかりとしているので、改善項目はない。家族との関係は、家族一人ひとりとの話し合いや要望を聞いたり、情報提供しているが、ホームの方針として、家族全体との交流等は考えていない。 2、 全体的に見て･･： “ホームの主催するらるご祭り”の時は、町内会のテントを貸してくれたり、運営推進会議にも積極的に参加して災害時の対応について協力してくれる事を話し合ったり、徘徊する人の顔写真等について話し合ったり、ボランティアについてお願いして、活発にホームと地域の協力関係を構築している。地域の民生委員の方々がよく訪問して、利用者ともよく話をしてくれている。